



2017 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第5戦・第6戦

開催場所 フェスティカサーキット瑞浪(岐阜県)
開催日 8月19日・20日
参加台数 OK クラス 27台
天候 晴れ
路面状況 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督:佐藤颯二 ドライバー:佐藤巧望

メカニック:伊藤進 エンジン担当:K SPEED WIN
アドバイザー:井上寛之



2017 全日本カート選手権も中盤、昨年タイトラ1位のフェスティカ瑞浪

全日本カート選手権の最高峰 OK クラスも中盤。折り返しの第5&6戦となる。舞台となるフェスティカサーキット瑞浪は昨年佐藤巧望がタイムトライアルをルーキー2戦目ながら獲得した得意のサーキット。唯一の違いは最高峰カテゴリー変更(KFクラス→OKクラス)に伴い最低重量などの仕様に変更された事。ドライビングやセッティングを上手くアジャストすることが出来るかがカギになる大事な一戦となる。



【タイムトライアル】B組7位 全体15位



本来土曜日の19日に予定されていたタイムトライアル。しかし前日夜の大雨警報により大幅にスケジュール変更。8月20日午前9時18分、全日本カート選手権 OK クラス B 組のタイムトライアルが始まることになった。昨年はここで全体の TOP タイムを計測した佐藤だが、ずば抜けたタイムを出す事が出来ずグループトップの佐々木大樹から0,19秒差の7位となる。全体では中盤となる15位となった。

【第5戦 予選】14位

午前10時30分に第5戦の予選ヒートがスタート。フロントスポイラーを取り付ける脱落式のアタッチメントにより接触即ペナルティのリスクがある中、スタート直後の5コーナーでは想像以上の接触があり、数台がはやくもリタイヤ。混乱を抜け出した佐藤のペースは TOP グループと大差ないものであったが中盤以降のバトルも多く、上手く上位へ追いつく事が出来ない。抜きつ抜かれつのバトルの多さからタイヤの摩耗も大きく。チームとともにセットの方向性を変更することになった。

【第5戦 決勝】 21位



12:30にOKクラス決勝はスタート。今回はスタートでの混乱はないものの、時折プッシング警告が掲示されるなど脱落式のフロントスポイラーの効力を疑問に思えるような光景が随所で見られる。佐藤はやはり、予選ヒートでのタイヤの摩耗が激しかったのかペースが上がらない。特に後半のペースダウンもあり今期ワーストの21位でレースを終える。昨年のドライコンディションでは目を見張る速さがあっただけに、非常に残念な結果ではあるが、午後から始まる第6戦でキレのある走りを取り戻すことに専念する。

【第6戦 予選】 15位

再びフレッシュタイヤを装着し始まる第6戦はベストラップもTOPグループと大差ないものの、レース展開、駆け引きの部分に課題もあり第5戦の予選と同じく順位を上げることが出来ない。第5戦の予選と比べるとタイヤコンディションは良好。決勝に向けたセッティングのアジャスト。そして今年度よりINTREPID JAPAN チームでタイヤテストを行う大ベテラン井上寛之選手から貴重なアドバイスをもらいレースに挑む。



【第6戦 決勝】 13位 → 17位

OKクラス第6戦の決勝はFS125クラスの審議に關係する遅延からPM17:34にスタート。連日この時間帯には夕立が強烈に降っており各陣営は慌ただしく雨セットも睨みながらのスタート進行となったが、結局雨は降らず。ドライコンディションでレースはスタート。夕方という事もあり気温、路面温度ともに下がり各メーカーのタイヤの設定作動温度域がきになるところ。実はこのレース、スタート前のデレイ時にストレート部分で中盤以降が接触。数台がリタイヤ、佐藤は踏みとどまるものの既に脱落式のフロントスポイラーは落下。しかしレース自体は継続可能。通常通りのスタートを切り、ペースもよく車の動きも良く見える。タイムもTOPグループと同じ、むしろ1位の選手より速いくらいであるが、プッシングのあとの処理が甘くスリップを使い抜き返されるなど勿体ないシーンが続く。結局13位でゴール。スタート前に脱落したフロントスポイラーの10秒ペナルティーを受け17位ゴールとなる。今大会は前年タイトラPPと得意とするサーキットであっただけに今回の結果は残念で仕方ないが、テストでは茂木でも非常に好調。今回学んだレーススキルを存分に発揮すれば表彰台、そして最高の結果も十二分に狙えると自負しています。次のレースまで約1カ月。チーム、ドライバー、メカニックと力を合わせご声援に応えます。引き続きのご声援、どうぞよろしくお願いいたします。



ドライバー 佐藤巧望 コメント



第5戦

予選から流れが悪かったので決勝ではセットを変えて挑みました。その結果、それが上手く機能せず、下位まで落ちてしまいました。自分のセット能力に力不足を感じました。

第6戦

スタートの時前車が加速体制になった時にブレーキを踏んだら後ろから追突され、フロントカウルが落ちてしまいました。6戦の決勝は今までに1番いいフィーリングだったのですが、それを生かしきれませんでした。得意の瑞浪だったのですが、前回同様力不足を感じるレースでした。次の茂木ではいいフィーリングだったので今まで悪かった分結果が残せるように頑張ります

INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督

開催場所がチームとしてホームコースである瑞浪という事もあり、事前テストを精力的に実施し、車両セットの方向性をある程度見極める事が出来ただけに、今回のリザルトは非常に残念です。しかし第6戦決勝ヒートでの走りはかなり良かったと思うので、これをベースにさらに改善して、次戦もてぎ大会に準備します。最後にホームコース開催にあたり、スポンサー・チーム関係者様には今まで以上のご支援を頂きまして誠にありがとうございました。

